

教えてください、あなたのことを。⑨

東京都町田市 田中 誠 さん（元・町田市廃棄物減量等推進審議会委員）



Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A すでに喜寿を過ぎた年齢に達していますが、古希を過ぎた年齢のつもりでいます。郷里は佐賀県嬉野市の温泉地ですが、父の転勤で、東京、満州の奉天、台湾の台北と台南、佐賀、新潟と転々として、小学校を7回も転校した浮浪少年期を経て、中学と高校の6年間を過ごした嬉野市が出身地と言えましょう。

Q ごみ問題に関心を持つようになったきっかけは？

A ごみ問題というか生活環境に関心を持ち始めたのは、石油会社の現役当時からです。自動車の燃料のガソリンと軽油からまき散らしている排気ガス、重油燃焼などで大気中に排出されている汚染の実態などから、環境汚染に関心を抱いて定年を迎え、ただちに町田市の環境部にコンタクトするようになり、卑近な事例として町田市のごみ問題に関わるようになりました。

定年の数年後に、ダイオキシンの大気汚染の問題が持ち上がり、東京都で町田市がワースト2と言う汚名を被ることになり、廃棄物減量等推進審議会の委員に推薦されるなどして、幾多の環境行政に関わって今日に至っています。さらに、ごみ環境から焼却場施設にまで関わって、目を離せない状況にいます。

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけを教えてください。

A 定かな記憶ではありませんが、ごみ問題への関心は日の出の問題に端を発して…だったと思います。そして、ドイツ環境保護連盟(BUND)のエアハルト・シュルツさんと呼んでの講演会を企画した、意欲的な市民団体があることを知って、ごみかんへ入会を決めました。

Q ごみ問題に関わること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A クラシック音楽なしでは人生を過ごせないほどに熱中していて、楽器を奏でる技能は持ち合わせていませんが、クラシック音楽の妙なる音を絶えず聞きながら、日々暮らすと共に、頭脳のひらめきと指を動かしてパソコンに向かっています。クラシック音楽を聴ける楽しみは人生最大の喜びで、人生の生きがいでもあります。

幸いに、町田フィルハーモニー交響楽団の後援会の理事を務めていて、町田周辺におけるクラシック音楽の普及の一端を担わせていただいています。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 町田市では、現在、「町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会」での議論の最終段階を迎えています。この状況に呼応して、10月19日に開かれた市民ごみ大学「規模縮小が進むごみ焼却施設」の講演は、現在の東京多摩地域での建て替え計画に関連して実にタイムリーな解説でした。このように時勢にあった講演会を計画していただけると、とても励みになります。関東一、むしろ、日本一のごみ・環境問題に取り組む市民団体として、さらに市民の皆さんから望まれるような活動を期待しています。